

[12_4] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
12(4)

<https://doi.org/10.15017/18301>

出版情報 : 図書館情報. 12 (4), pp.25-32, 1976-12-31. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



図書館情報

1976.10~12

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 12, No. 4

教養部分館のロシア語図書

三 上 正 利

東京のナウカ書店にソ連の本が輸入されているのを見てかえり、福岡から私が注文して買い始めたのは、昭和28年(1953)であった。当時はまだ、旧制福岡高等学校の図書館を引き継いだ六本松の第一分校図書館には、ロシア文字の本などは1冊もなかった。ロシア字のタイプライターもなかったので、図書カードには、ロシア語の書名をすべてローマ字に転写して英文タイプで打っていた。新着書を受け入れる図書館員もソ連の本には不慣れであったから、購入者の私もカード作りに助言したこともあった。第一分校図書館は昭和30年に二つの分校の統合によって教養部図書館となり、さらに昭和34年には九大附属図書館教養部分館となったが、昭和40年ごろであったか、この分館にロシア語のタイプライターが初めて購入されてから、図書カードを露文タイプで打ち直す作業が行われたので、現在ではロシア語の図書カードはすべてロシア文字のものばかりになっている。

ロシア語の図書は、以前も現在も分館の書庫の一隅にかためて配架されている。ところが初期のころには、ロシア語の本を図書館へ返却すると、誤って他の欧米語の書物のなかに配架されることがあって、次に借用するとき探し回ることがときどき起って困った。それで掛長に頼んで、ロシア語図書に貼付する分類ラベルの色を他の一般の外国書とは異なる色のもので変えて、掛員が配架する時にすぐ気がつくようにしてもらった。このやり方は今でも続いている。

最近でこそロシア語の古本が何かの機会に買えることもあるが、一般にソ連の本は刊行された時にすぐ買っておかないと、後で注文しても売り切れて入手できないことが多く、古本で買える見込みもほとんどなかった。それで、教養部で配分される私の僅かな研究費は、ほとんど全部ロシア語図書の購入にあてた。幾度か交付をうけた文部省の科学研究費も、すべて同様に使った。他方、歴代の分館長および図書館運営委員の諸氏に頼んで、ソ連の辞書、百科事典、年鑑、統計、地図帳などは図書館の共通図書費で買ってもらうように努力した。当時はソ連の本は欧米書に比較すると格段に安価であったから、限られた費用でも割合に冊数は買ったので、分館書庫の一隅にロシア語の図書が少しずつ増えてくるのが私のひそかな楽しみであった。

このような孤軍奮闘をつづけること十数年の後、昭和41年に同僚として小野助教授が来任されて人文地理学科の研究費が2人分に増え、さらに昭和46年からは人文地理学が実験学科となって研究費は倍加したので、私達の購入するロシア語の図書数は急速に増加した。そのうえ近年は他学科の教官も、たとえばヨーロッパ文学の清水教授(昭和44年着任)、ロシア語の金子助教授(昭和50年着任)、東洋史の森川助教授(昭和51年着任)や数学科などでもロシア語の図書を購入されるようになったので、教養部分館のロシア語図書は著しく増加しつつある。

もともと人文地理学は学問の諸分野にひろく関連をもつ学科であるうに、私は最初から、自分の研究を将来は他の教官がたと協力して行なう総合的な「ソ連の地域研究」にまで発展させたいと念願していたので、集書の範囲はソ連の地形・気候その他の自然地理から、考古・歴史・民族・経済地理・人口・都市などの諸分野、およびソ連邦を構成する各共和国の地誌類にいたるまで、費用のゆるす限り幅ひろくソ連に関する図書を買うように努力した。最近は前述のように、ロシア文学やロシア語関係の書物も集められている。

教養部分館におけるロシア語図書の蒐集の由来が以上のような事情であるから、もとより、今ここに書名をあげて他に誇るような稀覯本の所蔵はないが、何かの参考にもなればという趣旨から、共通図書的な性質のものを主にして蔵書的一端を附記してみよう。

辞書としてはウシャコフの「ロシア語詳解辞典」(2巻, 1935—39)、オジェゴフの「ロシア語辞

典」(1968, 1970), アカデミー版「ロシア語辞典」(4巻, 1957—61), 「11—17世紀ロシア語辞典」(1975—)のほか, ダーリの詳解辞典(4巻)やアカデミー版の大辞典(17巻)を初めとする各種辞典の近年のリプリント版などもあるが省略する。

百科事典としては, 帝政時代に出版されたブロックハウスとエフロン編の「百科事典」(82巻と補遺4巻, 1890—1907)があり, ソ連時代のものには「ソビエト大百科事典」の第2版(53巻, 1949—60)と, 目下刊行中の第3版(既刊24巻, 1970—)がある。これらには毎年別冊の「ソビエト大百科年鑑」(1957—)が附随している。そのほかには「ソビエト歴史百科事典」(既刊15巻, 1961—), 「地理学小百科事典」(5巻, 1960—66)などがあり, ソ連で出版された複製本ではあるが「シベリア・ソビエト百科事典」(3巻, Nまで, 原本は1929—32)がある。

統計書には, 毎年刊行される「ソ連国民経済統計集」, 「ロシア共和国統計集」, 「ソ連貿易統計集」のほか, 「ソ連農業統計集」(1971)がある。またソ連の国勢調査の結果をまとめて分析した「全ソ連人口調査の総括」には, 1970年1月15日に行われた国勢調査の「総括」(7巻, 1972—74)があり, これと比較する資料として, 複製本ではあるが1959年1月15日に行われた国勢調査の「総括」(16巻, 1975)がある。

また地図帳としては, 大冊の「世界地図帳」(1967)のほか「ソ連地図帳」(1969), 「ソ連農業地図帳」(1960)その他があり, ソ連邦を構成する諸共和国や諸地方の地図帳には, 「アゼルバイジャン共和国」(1963), 「タジク共和国」(1968), 「レニングラード州」(1967), 「ボルゴグラード州」(同年), 「サハリン州」(同年), 「ザバイカル」(同年)などの地図帳がある。

特殊なものとしては, ソ連の「自動車道路」と「鉄道」とについてそれぞれの地図帳(共に1966)があり, 最近刊行され始めた世界の「海洋アトラス」のうちの「太平洋」(1974), 「ヤクート自治共和国気候図帳」(1968), 「世界農業気候図帳」(1972), 「世界の水収支図帳」(1974), 「ソ連土壌図帳」(1974)などがある。民族誌の図帳には, 「シベリアの歴史・民族誌図帳」(1961)と, 19世紀半ばから20世紀初めにかけてのロシア人の農業, 農家, 農民の衣服に関する「ロシア人—歴史・民族誌図帳」(1967)というものがある。

また珍しい古地図を写真複製したものでは, 西シベリアのトボリスクでセミヨン・レメゾフが17世紀末に作製した手描の「シベリア地図帳」を1958年にオランダで初めて公刊したものや, 「17—18世紀のシベリアおよび北西アメリカにおける地理的発見の地図集」(1964)がある。そのほか都市の古地図の写真複製なども見られて興味深いものに「モスクワ史」(6巻7冊, 1952—59), 「レニングラード史」(6巻, 1955—70)および「キエフ史」(2巻, 1963—64)がある。

以上, 編集者のご依頼に応じて駄文を草したが, これは教養部分館におけるいわば「ロシア語事始」の記であり, 来年の春に定年退官をひかえた筆者の回想録である。測一物から出発した草創の時代には, 苦労が多かったという感慨が深い。教養部のロシア語は本年4月から英・独・仏・中国語と並んで第1及び第2外国語となり, 近いうちにロシア語の教官がもう1人増える予定である。分館の新築も間近い。将来いつの日にか, 次の世代の誰かがまたこのような回想記を書かれる時には, 分館のロシア語図書は, どんなに充実したものになつていくことであろう。

(みかみ・まさとし: 教養部教授・分館長)

本学教官著作寄贈図書

〈中央図書館〉

高橋 伊一郎 (農学部教授)

食肉経済—競争構造分析—

昭47 日木評論社 ¥1,400

城野 節子 (教養部教授)

スタール夫人研究 (2冊)

昭51 朝日出版社 ¥2,000

甲斐 諭 (農学部助手)

肉牛生産の展開構造

昭51 明文書房 ¥2,500

◆研修・研修報告

昭和51年度 大学図書館職員講習会に参加して

〈とき：昭和51年11月16～19日 ところ：広島大学〉

井 上 尚 代

この講習会は、中堅職員の資質の向上を目的に、昭和39年度から毎年開かれているもので、本年度の講習会（第2会場）の概要は次の通りである。

〔1〕「大学の使命と大学図書館の役割」（鳴海 元 広島大学附属図書館長）

ヨーロッパ中世＝神学から始まって近代＝哲学・自然科学に至る「大学」の概念の変遷、それから旧制大学はドイツを、新制大学はアメリカを、教授会はドイツ式、学生組織はアメリカ式を模倣した「日本の大学」の複雑な構成、その中にある大学図書館の位置づけと、問題点が出された。

1. 大学内の図書館の位置。予算・人事からみて主体性をもてない現状。
2. 中央図書館と分館の問題。近年、医学図書館は独自性を発揮して医学系ネットワーク化に成功した。
3. 研究図書館と学習図書館との関連、大学院の扱い。
4. 大学間、大学図書館相互間の組織化が遅れている。行政レベルでも、自分の専門分野(物理)は、科学技術庁と文部省の2つに関連があると云う具合だ。
5. 大学図書館の均一化。ベーシックなものは別にして、個性化する必要があるのではないか。理科系でいえば、学術雑誌が主体であり、更にプレプリント段階では、現在の図書館では役立たない。など

〔2〕「学術研究と大学図書館人文・社会科学分野」（新堀通也 広島大学教育学部教授）

日本の人文・社会学の特徴として、

1. 研究の場は大学が中心、そして私大において、人文・社会科学の占める比率が大きい。
 2. 講座制その他の制度的、心理的条件に妨げられて、自然科学との学際的領域（情報科学、人口学、都市学など）の研究欠如。
 3. 論文発表の大部分が日本語、マーケットが狭い。
 4. 大学と大学外機関との交流、大学間の交流、国際交流が乏しい、専門分野での交流も少ない。
- 個人的に図書館に望むこととして、
5. 地域性にかかわる資料を体系的に。
 6. 同一地域内での蔵書分担収集に各大学毎に特色ある方針を。
 7. 大学院生、大学院志望学生は、研究後継者であり、彼らは図書館を研究図書館と見なしているのだから、彼らを優遇する方策を考えてほしい。など

〔3〕「学術研究と大学図書館 自然科学分野」（芝 哲夫 大阪大学理学部教授）

1. 化学系文献の retrospective search (遡及的文献調査) をする場合に用いる「Chemical Abstracts」, 「Beilstein」など二次資料の解説と問題点。

2. 何よりも priority (先手権) が重要なので、それに伴う current awareness (現状追従調査) を得る手段として、「Chemistry Letters」のようなレター形式の資料、更に論文標題だけ掲載(米・英・仏)の「Journal of Chemical Research」創刊の現実化。学会などに積極的に参加して求める Oral communication (口頭情報) がかなりをしめている現状。

3. データ(化合物の指紋に相当する)は、二次情報は勿論、一次情報にも掲載されていないので、データが欲しい場合、論文著者個人に問い合わせるしかない。是非データを deposit (蓄積) しているところが欲しい。

4. 米国には「Journal of the American Chemical Society」が、英国には「Journal of the Chemical Society, London」があり、その他 1, 2 冊の専門雑誌に目を通せばよいが、日本の場合、有機化学で言えば、同じテーマが化学、薬学、農芸化学の分野で研究されており、それぞれの雑誌に発表するので、(1968年現在、国内化学系雑誌は 52 タイトル) 目を通すのも容易でない。

5. 大学図書館はこの現状にどう対処していくか。

〔4〕「これからの大学図書館」（岩猿敏生 関西大学文学部教授）

1. 大学図書館改革を困難にしている外側の要因（大学の枠組みの中にある図書館なので、抜本的な改革が出来ない、大学構成員の図書館問題に対する理解の欠如など）。内側の要因（改革に対する図書館側の主体的動きかけが不十分、資料収集が教官まかせなど）について。

2. 奉仕体制の強化といわれているが、「文部省 昭和 50 年度 大学図書館実態調査」で、図書館構成員の 37%が整理要員、22%が閲覧要員、3.8%が参考要員であること。総合目録の無い図書館が、単行本（和）が 85%、（洋）が 86%、雑誌（和）が 71%、（洋）が 70%というこの現実の重みにどう対処していくのか。など

[5] 「大学図書館における書誌情報」（田辺 広 千葉大学附属図書館事務部長）

1. 学術情報といわれているものに書誌情報（図書、雑誌の外側に関する情報）と、内容情報（資料の内容にわたって情報を扱う）があり、図書館が行う最も本来的な情報活動は、この書誌情報、すなわち一次資料を収集蓄積して、有効に利用するための流通システムを整備・確立することである。

2. ライブラリアンとドキュメンタリスト（科学技術に関する情報専門員）、情報学者の違い。

3. いわゆる目録情報（目録規制によって制限または規則された情報）といわれているものに、上記の書誌情報を加えたものとして、L. C. の MARC（機械可読目録）に分類・件名情報を加えたものがあるが、更に抄録、書評なども加えてより完全性を目指し、SDI (Selective Dissemination of Information) サービスにも備えたい。

4. 書誌情報の機械化と標準化。日本 MARC の問題点。漢字のコンピューター処理について。

5. 日本目録規則新版について。特に基本記入方式と記述独立方式の中間にあたる「記述ユニット・カード方式」（標目の部分を空白にして、カードを複数作成し、あとで書名、著者、件名、分類標目を記入）を採用した意義と問題点。

6. 国際標準図書番号 ISBN (International Standard Book Numbering)、国際標準逐次刊行物番号 ISSN (International Standard Serial Numbering) について。

[6] 「英国における図書館活動」（門田泰典 大阪大学附属図書館参考掛長）

1. 英国の図書館業務の機械化の実際について。

2. 大学図書館が機械化に成功するためには、中核館が必要と思われるが、英国の場合 British National Library があり、書誌的には BNB (British National Bibliography) が確立されている。

[7] 「大学図書館における参考調査活動」（井出 翕 東洋大学文学部教授）

レファレンスワークのフロー、システム、プロセスなどの分析的考察。

[8] 「大学図書館における相互協力活動の実際」（長尾公司 九州大学附属図書館事務部長）

1. 利用、収集、整理面での相互協力の実際と問題点。

2. 九州地区国立12大学における外国雑誌の重複発注状況の分析（① ユニーク・タイトル2,085点に対し、コモジャーナル235点、② 九大は九州地区全体の72%のタイトル数を揃えているなど）と問題提起。

以上で4日間の講習を終えたわけであるが、講師、受講者を含めて、講習会参加者全体が、今のままの大学図書館ではいけないということでは一致していた。では何から改善していくかを私達は考えなければならないと思う。まず第一に、どの講師も共通して言及していることであるが、大学図書館が体系的に組織化されていないということがあげられる。そのことのために、個々の図書館で、利用者の種々雑多な要求に、右往左往しているのが現状だ。全国の図書館がレベルアップするようなマスタープランが必要だと思う。第二に、具体的な提案として、総合目録の整備をあげたい。全国の大学図書館で、80%が総合目録が無いということ、講師のある方はこの実態調査の結果にショックだったと言っていたが、このことの解決なしに図書館の近代化は望めないし、レファレンス業務の確立もない。図書館の恒常的な定員不足が原因だが、整理業務としては、目録作業が精一杯で、利用者に対して有効に活用できうる書誌情報を整備するまでには至っていないし、それを基本として利用者に対するサービスを行う閲覧業務が充実しないのも当然といえる。行政レベルで早急に検討してもらいたい。

最後に、ライブラリアンとして、研鑽をつんで、ドキュメンタリストとの共通部分を追求出来るようにありたいし、その意味では研究者の生の声（C. A. の利用価値など）も聞くことが出来、有意義な講習会であった。

九大からは次の4名がこの講習会に参加した。石井保広（医学分館）、保田秀人（教養部分館）、浜崎修一（農学部）、井上尚代。

レファレンス・コーナー (その34)

— 中央図書館情報資料掛 —

中央図書館の情報資料掛(電・5310・5317)では、利用者の方々から寄せられてくるいろいろな質問事項の調査を行なっていますが、ごく最近にあった質問のなかから幾つかを、ご参考のためにここへ挙げてみることにします。

質問1 最近、海藻から石油を作る研究が行われたと聞くと、その海藻名を知りたい。

回答例 「Chemical Abstracts」の General Subject Index. Vol. 81('74) より、研究は Canadian Journal of Botany. Vol. 53('74) p. 109-117 に C. Sato, J. A. Hellebust, T. C. Hutchinson & T. Sawa: Effect of Naphthalene and Aqueous Crude Oil Extracts on the Green Flagellate Chlamydomonas Angulosa として発表されており、海藻名は Chlamydomonas Angulosa (微細藻類) である。

質問2 JIBP-PF. 諏訪湖研究グループ: 諏訪湖生物群集の生産力に関する研究経過報告2(1970)についてくわしく知りたい。

回答例 「学術月報」Vol. 24('71) と「日本生態学会誌」Vol. 17~23('67~'73) を参照した。

① 国際学術連合会議 (International Council of Scientific Unions) の研究事業として、国際生物学事業計画 (International Biological Program) が1965年から1974年まで、58カ国の参加、協力国33カ国で進められた。目的は、人間を環境破壊から守り、人間の福祉を維持増進させるため基礎となる生物の生産力、自然保護、人間の適応能、生物資源の利用管理の方法等について世界の学生が協同、研究を進めるためである。

② 我国も計画に参加し、国際学術連合会議に加入している日本学術会議の中に国内委員会、即ち日本学術会議特別委員会が設置された。JIBP とは、当委員会を指す。

③ 当計画には、下記の7分科が設けられていたが、質問の PF はその中の1分科である。PT (Productivity of Terrestrial Communities) 陸上生物群集の生産力/PP (Production Processes) 生物生産の諸過程/CT (Conservation of Terrestrial Communities) 陸上生物群集の保護/PF (Productivity of Freshwater Communities) 陸水生物群集の生産力/PM (Productivity of Marine Communities) 海洋生物群集の生産力/HA (Human Adaptability) 人の適応能/UM (Use and Management of Biological Resources) 生物資源の利用と管理。

urces) 生物資源の利用と管理。

④ PF 分科の我国研究班の4テーマのうち1つが調和型湖沼の生物群集の生産力に関する研究である。諏訪湖研究グループとは、このテーマに参加している74名の研究者のうち、調和型湖沼である諏訪湖、琵琶湖、日光湯ノ湖のグループ中、諏訪湖班を指す。

質問3 昭和37年3月、九大理学博士になった人の論文要旨を見たい。

回答例 「博士学位論文内容の要旨及び審査の結果の要旨」(九州大学時報別冊) (040,キ,38) は第1号(昭37,5,19日授与分) から継続所蔵しているが、これに収録されていない以前のものは、「九州大学時報」中に合綴されている。この「時報」は、「九州帝国大学時報」: 1(大13)~762(昭22), 「九州大学時報」: 763(昭22)~1020(昭43,3), 「九大学報」: 1021~と誌名を変遷して、本館では第145(昭4)~934(昭35) (199,キ,18) を所蔵している。求める部分が欠号しているので、「九州大学時報」を完備している事務局文書掛を紹介した。なお学内における博士学位論文の本体の保管状況はおよそ次の通り。文、教、法、薬学博士号(新制大学から以降)は、各々の図書室に、経済学(昭和39年以降ぐらいから)は経済学部庶務掛に、工学(大正11年ぐらいから)は工学部学生掛に、理学(昭34年以降)、農学(昭38年以降)は理、農図書室にあり、医学は医学分館にあるが未整理である。そのほか、博士論文に関する文献としては、「日本博士録」(650,ニ,25) や、東大、京大、阪大の「論文要旨」などを継続所蔵している。また、国立国会図書館所蔵の国内学位論文は、その大部分が整備されてなく、閲覧できがたい状況であると、「科学技術文献サービス」昭37年1号で報告されている。

質問4 河野禎造記「舎密便覧」について。

回答例 「広辞苑」によれば、舎密(セイミ)は江戸後期から明治初期にかけての化学(Chemie)の呼称。「国書総目録」(010,コ,123)を調べて、九大、京大、東大、国会が所蔵。

国立七大学図書館協議会（第50次）

〈とき：昭和51年9月21～22日 ところ：鳥羽市国家公務員共済組合連合会鳥羽保養所〉

本年度は名古屋大学を当番校として開催され、文部省情報図書館課から前田課長補佐、沙藤専門員の出席を得て、次の協議題について審議が行われた。

部課長会議

(1) 高額な経費を要する逐次刊行物等の購入調査について (2) 学術雑誌総合目録のありかたについて (3) 昇格（五等級）基準について (4) 定員外職員の待遇改善について (5) 図書系の係に勤務する一般職員の五等級昇格について (6) 海外から寄贈受けている学位論文について (7) 週休2日制と図書館業務体制について (8) 洋書輸入協会の公正取引委員会勧告受諾に伴う外国雑誌・洋書輸入について (9) 図書館資料の廃棄について

協議会

(1) 新しい学術情報要求と中央図書館の対応について (2) 地域社会における大学図書館の利用・サービスについて (3) 第4次定員削減について (4) 特別図書購入費の継続配付について (5) 外国雑誌収集特別予算措置について (6) 相互協力担当要員の確保について

以上審議の結果、1. 学生用図書購入費をさらに増額すること 2. 特別図書購入費を継続・増額すること 3. 外国雑誌購入費の別わくを新設すること、の3点について、協議会議長名で、昭和52年度予算編成にあたり特に要望する重点事項として、文部大臣及び大蔵大臣あて要望書を提出することとした。また、図書館職員の定員削減対象からの除外ないし削減率の緩和について、同協議会長から文部大臣及び行政管理庁長官あて、要望書を提出することとした。

(注：上記要望書は昭和51年10月1日付でそれぞれ送付された)

福岡県・佐賀県大学図書館協議会 福岡地区研究会

昭和51年度は会場を九州産業大学に依頼して開催されることとなり、第1回は7月26日、「大学図書館の最近の動き」というテーマで、本館長尾事務部長の講演とこの研究会の今後の研究課題についての検討をした。第2回は10月24日、「相互協力体制の確立—文献複写 サービス を主として」というテーマで、本館岩井閲覧課長の関連課題の説明と問題提起、次いで各館の実状報告及び意見の発表と交換を行いこの地区を中心とした今後の相互の協力活動の推進について各館とも協力することに同意した。第3回は12月14日、「図書館統計について」というテーマで、九州芸工大の永芳事務長を司会者として各館の実態にもとづく事務報告を行ない、今後は規定の統計のほかに各種調査統計に主眼をおき、業務分析や業務改善に反響するような統計作成に意見の一致をみた。

以上3回を以て今年度のこの研究会は終了することとなった。

日本医学図書館協会総会（第47回）

〈とき：昭和51年10月13～14日 ところ：城山観光ホテル(鹿児島)〉

日本医学図書館協会は、正会員82館、協力会員1機関、賛助会員25機関で構成され、毎年1回加盟館の当番制で総会が開かれる。今回の総会では金沢医科大学図書館、防衛医科大学校図書館、日本大学松戸歯学部図書館の3館があらたに加盟を承認された。また、名誉顧問として、九州大学附属図書館長尾事務部長が満場一致で推せんされた。

主な協議事項は 1. 協会年次出版物を事務局で刊行することについて(中国・四国地区)—提案どおり次回から事務局で行うことに決定 2. 理事定数の増員について(中央事務局)—提案どおり増員決定 3. 第48回総会当番館について(中央事務局)—順天堂大学で開催することを決定。なお、九州大学医学図書館からは、後藤館長、朝倉閲覧掛長、山口・石井両事務官が出席した。

九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会

〈とき：昭和51年10月29日(金) ところ：鹿児島大学附属図書館〉

今年度は11大学より事務部長、課長及び掛長等18名出席のもとに開かれた。

議題 外国雑誌購入に関する諸問題について。

九州大学附属図書館 長尾事務部長より外国雑誌の契約方法と購入費および学術資料の相互利用と集中化など、当面の諸問題に関する現状並びに将来の課題について講演があり、その後、国立大学図書館協議会外国雑誌調査研究班より全国国立大学に調査依頼する「一括契約購入外国雑誌に関するアンケート」案について、長尾主査より詳細な説明があり、次いで各項目ごとに活発な質疑応答が行われた。また各大学から報告された外国雑誌の購入状況について熱心な討議と意見の交換が行われた。

指定図書の整備状況について

指定図書は、新制大学における単位制度の理念に対応するための、一つの物質的条件として設けられた制度である。本学では、昭和37年度からこの制度を導入し、毎年学部の指導教官の推せんによって指定図書を拡充し、学生の利用に供している。

中央図書館における昭和49～51年度の推せん状況、及び購入冊数は次のとおりである。

第1表 指定図書の推せん状況

学部名	講座数	49 年度		50 年度		51 年度	
		推せん講座数	推せん率	推せん講座数	推せん率	推せん講座数	推せん率
文学部	24	18	75.0%	15	62.5%	24	100.0%
教育学部	12	10	83.3	7	58.3	8	66.7
法学部	23	18	78.3	14	60.9	18	78.3
経済学部	16	14	87.5	13	81.3	16	100.0
理学部	48	41	85.4	24	50.0	26	54.2
工学部	131	48	36.6	59	45.0	80	61.1
農学部	49	37	75.5	30	61.2	41	83.7
計	303	186	61.4	162	53.5	213	70.3

〔注〕 「推せん率」の「計」は平均である。

第2表 購入冊数

部局名	49 年度			50 年度			51 年度		
	推せん	絶版	購入	推せん	絶版	購入	推せん	絶版	購入
文学部	225冊	8冊	217冊	127冊	11冊	116冊	231冊	15冊	216冊
教育学部	103	7	96	76	7	69	101	2	99
法学部	267	19	248	165	4	161	186	6	180
経済学部	192	3	189	129	2	127	113	15	98
理学部	363	17	346	190	3	187	289	8	281
工学部	314	11	303	433	21	412	560	23	537
農学部	302	4	298	195	6	189	307	9	298
計	1,766	69	1,697	1,315	54	1,261	1,787	78	1,709

- 〔注〕
1. 継続図書で購入中のものは「推せん」冊数から除外した。
 2. 絶版の割合は、毎年約4%あり、この中、大部分は昭和45年以前に刊行されたものである。
 3. 購入の中、昭和49、50年度は3%、51年度は10%が未刊行のため、受入していない。

お知らせ

部局ジップナンバーの採用実施

本学では16部局への分散直送方式により、購入している外国雑誌の、郵便物の学内仕分け作業の円滑化及び誤配チェックを容易にするために、宛先名の表示方法を統一するとともに、部局ジップナンバーを1976年版から採用することにした。しかし決定時期が遅れたことなどから、旧名で郵送されてくるものが若干ある。このため、外国雑誌の予約契約を一元化した1977年版からは、新宛先名による表示の完全実施方を書店に対し再要請した。

部局ジップナンバー表

中央図書館	0 0 A	農学部図書室	4 6 C
医学分館	8 8 B	工学部図書室	3 6 C
教養部分館	0 1 B	薬学部図書室	6 2 C
文学部図書室	0 6 C	温泉治療学研究所図書室	6 9 E
教育学部図書室	0 3 C	産業労働研究所図書室	8 5 E
法学部図書室	2 3 C	生産科学研究所図書室	8 6 E
経済学部図書室	2 7 C	応用力学研究所図書室	8 7 E
理学部図書室	3 3 C	大型計算機センター図書室	9 1 F

〔註1〕 歯学部及び医療短期大学部は医学分館でこの業務を取扱っているため除くことにした。

〔註2〕 この記号は「文部省学術情報図書館課監修 学術雑誌総合目録自然科学欧文編 1975年版 所蔵データ 記入作業の手引コード表Ⅲ部局コード(1)、コード表Ⅳ部局コード(2)、を採用した。

(中央図書館受入掛)

目録

会議等

- | | | | |
|--------------------------|---|--------|---|
| 10. 13-14 | 日本医学図書館協会第47回総会 於鹿大 | 15 | 徳島大学 沖田整理係長, 聖マリアンナ大学医科大学 清水図書課長, 神戸大学 塩田運用掛長 |
| 14-16 | 大学図書館基本問題特別委員会, 国立大学図書館協議会理事会, 岸本奨励賞選考委員会, 大学図書館改善調査研究班会議 於広大 | 18 | 東北大学 松川医学図書館事務長 |
| 27 | 図書館情報編集委員会 | 21 | 秋田大学 越前屋第一工管係長 |
| 29 | 九州地区国立大学図書館実務者連絡会 於鹿大 | 25 | 京都大学 武内受入掛長 |
| 福岡県・佐賀県大学図書館福岡地区研究会 於九産大 | 東京外国語大学 河内会計課長補佐 | 26 | 慶応義塾大学 高島館長外 2名 |
| 11. 11 | 国立大学図書館改善委員会 於九大 | 10. 27 | 創価大学 山崎教務部長外 1名 |
| 15-20 | 文部省会計実地監査 | 28 | 三菱化成黒崎工場 吉田資料課長外 1名 |
| 16-19 | 文部省図書館職員講習会 於広大 | 11. 10 | 東京大学 東閲覧課長 |
| 12. 7 | 全学図書系掛長研修会 | 11 | 広島大学 藤田事務部長, 鹿児島大学 黒住事務部長 |
| 14 | 福岡県・佐賀県大学図書館福岡地区研究会 於九産大 | 12 | 東北大学 及川参考調査掛長 |
| 16~ | 図書館職員語学研修会(ドイツ語) 昭和52年3月10日迄 | 13 | タイ国立大学次官補 ウイチット・スリサアン氏 |
| 17 | 全学図書系掛長会議 | 16 | 創価大学 唐沢理事長外 1名 |
| 来館者 | | 11. 16 | 青葉学園短大 森清図書館長 |
| 10. 12 | 福島県立医科大学 本田図書係長 | 17 | 文部省学術国際局情報図書館課 雨森大学図書館係長 |
| | | 12. 7 | 農林省 大塚課長, 石躍係長 |
| | | 13 | 大分大学 土居事務局長 |

編集委員 主査・岩井 昭三 委員・八尋 重久, 重松多喜造(中央図書館), 福永 寿夫(医学分館), 中野 周行(教養部分館), 西嶋 武(文), 岸本 澄夫(理)

九州大学附属図書館報「図書館情報」Vol. 12, No. 4 (通巻105号)

1976年12月31日発行・発行人 長尾 公司

発行所 九州大学附属図書館・福岡市東区箱崎6丁目10番1号・〒811②・電話代表(641)1101 内線5301